



荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 北前船寄港地・船主集落

「諸寄港」まち歩きマップ

雪の白浜、風待ち・潮待ち港、諸寄
ええとこだけえ ゆっくり見て行きなれなあ！



諸寄港・風待ち港

諸寄港は、江戸時代から北前船の風待ち・潮待ち港として栄え、諸寄港からは海産物や諸寄砥石などが船積みされました。また、船の出入りとともに人や物が行き交い、全国の多くの文化が混流し、諸寄地域をはじめ周辺地域の経済的發展に大きな影響を与えました。

しかし、鉄道の開通（M45年）によって、物流手段が大きく変わり、諸寄の繁栄も北前船の衰退と同じ道をたどりました。

諸寄地区内には、北前船に関する史跡や航路図などが数多く残されています。特に、為世永神社は、航海安全と商売繁盛を祈願した北前船の船主や船乗りの信仰・崇拝の篤い神社です。境内の灯籠と玉垣は、明治17年（1884）改修工事に合わせて、全国の船主等から寄付を募って建てられたもので、陸奥・越後・若狭・因幡・肥前・周防・大阪・下野などの北前船関係者（寄進者）の住所と氏名が刻まれています。

また、北前船によって諸寄港にもたらされた文化は、人々の新たな文化創造にも影響を与え、明治の歌人前田純孝や異色の日本画家谷角日沙春、社会教育家篠原無然、日本画家で障がい者の社会参加を支援した藤田威など、多くの先人が出ています。



下ノ町(廻船問屋)地区界隈



川中町・山根町(船宿・廻船問屋)地区界隈

《モデルコース》

〔所要時間：2時間30分〕

諸寄漁港セリ場駐車場

↓ (徒歩：5分)

川中町(船宿)地区

↓ (徒歩：3分)

為世永神社 (玉垣・灯籠 10分)

↓ (徒歩：2分)

山根町(廻船問屋)地区

↓ (徒歩：5分)

日和山(和船係留杭跡)

↓ (徒歩：10分)

下ノ町(廻船問屋)地区

↓ (徒歩：5分)

八坂神社社務所(船絵馬 10分)

↓ (徒歩：3分)

諸寄基幹集落センター (30分)

↓ (徒歩：8分)

諸谷山龍満寺

↓ (徒歩：1分)

J R 諸寄駅

↓ (徒歩：7分)

諸寄漁港セリ場駐車場

↓ (車：3分)

城山園地展望台・駐車場(10分)

※J R利用の場合は、逆コースがおすすめ。



聖衆寺

浜坂勝願寺の末寺。境内に是得上人名号碑がある。



為世永神社

毎年7月14・15日に祭礼が行なわれる。境内には、北前船で運ばれてきた出雲石で造られている全国の船主たちが寄進した玉垣や灯籠・狛犬がある。



藤田 威：障害を乗り越えた日本画家
大正6年（1917）～昭和47年（1972）



廻船問屋中藤田母屋
日本画家 藤田威生家

山根町(廻船問屋)地区



日和山・常夜燈跡
北前船が往来した当時、灯りが灯された。



谷角日沙春生誕百年記念碑

谷角日沙春：異色の日本画家
明治26年（1893）～昭和46年（1971）

北前船停泊(旧諸寄港)地区



和船係留杭跡
北前船をつないだ杭の跡が残る。

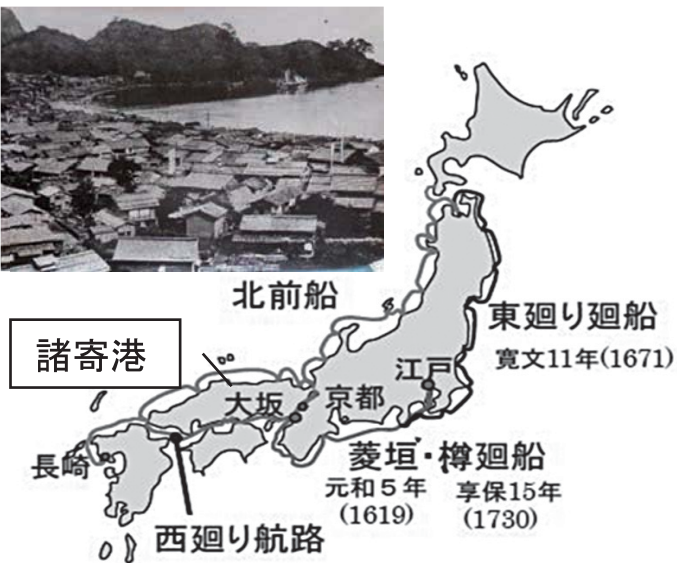
北前船寄港地「諸寄港」まち歩きミニ写真館

中世・戦国期の諸寄港

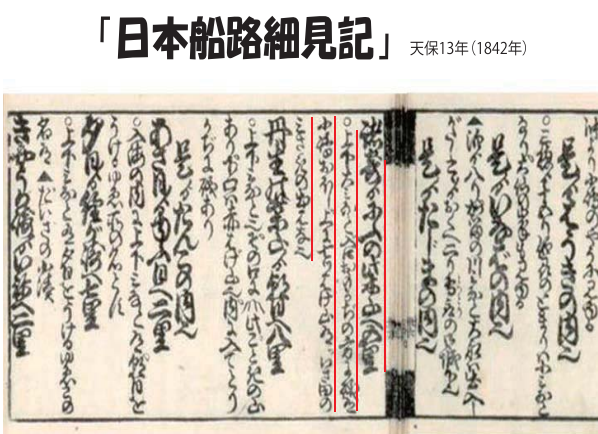


中世の諸寄港には、因幡から但馬の海上戦略の要所として、戦国期の武将 塩冶氏の居城「芦屋城」が築かれた。

北前船航路と諸寄港



記録に見る諸寄港



諸寄港は、古地図や航路誌にも記載されている古い港である。
諸寄港:「諸寄よりにふの柴山五里。上下大みなと。入口おもかじの方に磯有。小嶋おほし。丹生柴山より朝日へ八里」

「雪の白浜」と諸寄港

枕草子 作者：清少納言・成立：1002年ごろ

「浜は

有度の浜 吹上の浜 長浜 打出の浜

諸寄の浜

千里の浜 広う思ひやらる」



有度の浜：駿河国安倍郡
吹上の浜：紀伊国名草郡
長 浜：志摩国英虞郡
打出の浜：近江国滋賀郡
諸寄の浜：但馬国二方郡
千里の浜：紀伊国日高郡

諸寄港の取引商品

「動く総合商社」と呼ばれた「北前船」。諸寄港からは、砥石や飲料水が積出され、出雲石・笏谷石・石州瓦が荷下ろしされた。

【積出し商品】



「諸寄砥石」



航海中の飲料水を汲んだ「笹屋の井戸」

【荷下し商品】



「出雲石(島根県)」



「笏谷石（福井県）」



「石州瓦（島根県）」

諸寄港に残る

北前船難破船記録



天明3年(1783)から明治11年(1878)の95年間に93件の難波記録が残されている。

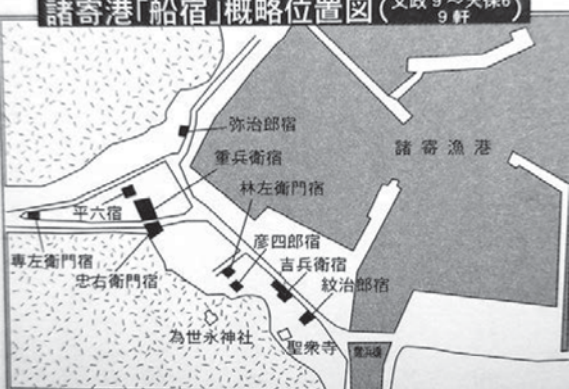
龍満寺の名僧たち

江戸後期
禅の四天王

象山問厚和尚	牛問厚(龍満寺)
玄楼奥龍和尚	狼玄楼(龍満寺)
靈潭魯龍和尚	獅子靈潭(龍満寺)
風外本高和尚	虎仏通(摂津仏通寺)
寂潭俊龍和尚	画僧：たこ風外
	彦根清涼寺・江戸豪徳寺住職

龍満寺は、江戸時代「馬北(北但馬)の鬼道場」として代々高僧を輩出している。諸寄沖で難破した際、亡くなった乗組員を供養した記録が残されている。

諸寄港の船宿跡



諸寄港には、為世永神社の下、川中町・山根町内に九軒の船宿があったことが知られている。

諸寄港の日和山



ありし日の日和山。「常夜灯(常燈)」。現在、日和山には、「常燈」と「諸廻船問屋中」と刻まれた常夜灯の一部が残る。

北前船から鉄道へ

諸寄駅の開業



昭和13年「諸寄駅」開業式典

諸寄港と久邇宮家



「久邇宮家」中藤田家前歓迎式典。浜までムシロを引いてお迎えされた。諸寄港の中藤田家・東藤田家には、久邇宮家関係の書画が残されている。



塩谷海岸にあった「久邇宮家別荘」。建設にあたっては、廻船問屋「東藤田家」が支援した。昭和33年浜坂地区に移築された。

諸寄の地形と北前船



天まで続く棚田。耕作地の少ない諸寄、必然的に漁業・北前船で栄えた。その裏には、航海中の家を守った女性の存在が大きい。